

梅檀

令和の時代へ

昭和から平成、そして「令和」へ。その意味は？ 厳しい寒さのあと、美しく咲き誇る梅の花のような希望に満ち溢れた時代にしていきたいとの意味が込められていると安倍総理が見て述べられています。さらに「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味も込められているとのこと



小学校入学が令和元年の節目の子ども達、変化の激しい時代にどのように子ども達へ「夢や希望」を育んでいけばよいのだろうか。学校・保護者・教師達の使命であり、協働の挑戦である。『子どもは勝手に育たない、子どもは親が育てたようにしか育たない。』今年度の入学式での校長式辞の一文である。この『親』について説明を付け加えたい。

ここで示した「親」とは単に保護者を意味するものではない、それは保護者・教師達・地域の皆さますべてを含めた『大人達』を意味するものである。子どもを育てる責任はすべての大人たちの義務であることを確認しておきたい。なぜならば、私たちが年老いたとき私たちを支えてくれるのは間違いなくこの子たちであるから。



《学校の風景》『つながる』《



村内各学では、アブシバリーの地域行事も終わり梅雨期に入りました。学校内では教材園で育てたキュウリやトマトの収穫が始まりました。写真はたわわに実ったキュウリを収穫し喜ぶ2年生です。最近ではアパートやマンション暮らしが主流で、自らの畑を耕し、作物を育て、収穫して自分たち

で食するという機会を設けることが難しくなりました。これも時代ですね。だからこそ学校でその体験をつくってあげることの意義が大切にされるのです。「学校と家庭」、「保護者と教師」が互いに協働し、互いの不を補い、支え合う共生と共同の学校へ。目的は実にシンプルで分かりやすいものです。

☆ 先生と親が「子どものために」つながるです。

交通安全指導への協力

6月5日（水）朝の登校時の安全指導に二人の保護者が参加してくれました。1年生のらいとさんのお父さんと、ながせさんのお母さんです。登校する子ども達と笑顔であいさつを交わしながら安全を見守っていただきました。



安全指導は7時45分から8時までとさせていただきます。皆様のご理解とご協力よろしく願います。



学校の授業風景が変わる

4月より村教育委員会の計らいで各教室に電子黒板が配置された。授業する側の教師も、子ども達も「分かりやすい」と大好評である。教師はPCを手に座ったままでも授業の進行が可能になりました。ヨーロッパではこの授業風景が主流です（ほとんど黒板は使いません）。IT革命、イノベーションなど様々な変化が学校の教室まで浸透してきました。これまでと違う授業風景に親たちは違和感を感じるのではないかと察しますが。これも時代です。それにしても本校の先生方の対応能力には私も頭が下がりました。私、老兵も時代に乗り遅れないようにしなければ・・・

《がんばる先輩たち》

私の学校経営の方針に異学年交流学習があります。先輩と後輩のつながりを授業でつくるというものです。上の写真は2年生が1年生に国語のお勉強で順序に気を付けながら「ありとすみれ」について説明しているところです。下の写真は4年生が2年生に「生き物クイズ」を出して楽しく学んでいるところです。兄弟がセットになることもあり、お兄ちゃんお姉ちゃんの手を抜けません。

